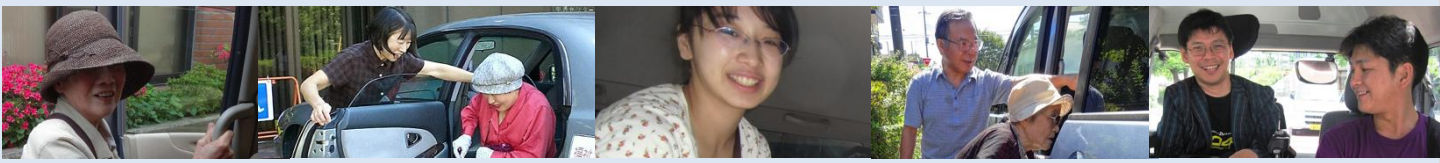
障害があっても　歳をとっていても
望んだ場所にだれもが行ける
「移動サービス」のお手伝いをしませんか

photo by：bunnyandcoco
creative commons



移動サービスは

高齢者や障がい者など、ひとりで外出できない方を
「車と介助」でサポートするサービスです。

NPO法人
全国移動サービスネットワーク

移動サービスとは

人の心と体を自由にするサービス

高齢で足が不自由になった、
怪我をした、リウマチなどの病気にかかった、
あるいは、体が不自由、
知的障害で公共交通が使いにくいなど、
さまざまな理由から移動が自由にできず、
家に閉じこもらざるを得ない人がいます。

こうした「移動困難者」に、自動車で外に出る手段を
市民の手で提供するのが「移動サービス」です。
タクシーや公共交通とは異なるきめの細かい心の通った運転が、
多くの人の移動を可能にし、心と体を開放しています。

いま、これらのサービスを必要とする人々に対し、
サービスの担い手、おもにボランティアドライバーが
圧倒的に足りていません。

「望んだ場所へ誰もが行ける」
そんな社会づくりをめざす活動に、あなたも参加しませんか。

移動困難者に寄り添う活動

移動サービスの内容には、自家用車から車椅子対応の福祉車両を使った送迎まで、さまざまな形があります。最寄りのバス停や駅までの移動が困難な方には、自宅から目的地まで移動を提供します。さらに、乗降介助やベッドからの介助が必要な方には、そのサポートまでをカバーすることもあります。これらの活動は、**NPO法人などによる移動サービス提供団体**の**ボランティアドライバー**が担っています。

こうしたサービスを利用するには「移動サービス提供団体」の会員になる必要があります。利用者は会員登録をすることで、個々人のニーズに沿ったサービスを受けることができます。移動サービスを利用できる**移動困難者**（要介護などの要件を満たしている人）は、全国で**人口の約２％**※いるとされています。

なお、移動サービスには鉄道やバスなどの公共交通機関が廃止されたために「公共交通空白地帯」となった地域の人々に、移動手段を提供するというサービスもあります。

ボランティアドライバーによる乗降介助の様子

出典：
※ 国交省平成29年報告書「地域における福祉タクシー等を活用した 福祉輸送のあり方調査」

移動サービスの現状

移動が困難な人に行き渡らないサービス

いま、サービス提供団体は **2,575**しかありません。

サービスが必要な人は　254万人

（人口の２％相当）

1団体あたり利用者数200名※として

利用可能な人数：51万人

サービスが使えるのは

5人に1人

いまよりも5倍の運行を担うため、多くのボランティアドライバーの参加を必要としています。

※注釈：
利用者200名、ボランティアドライバー20名の団体で、現状年間9,000回の運行実績がありますが、すべての団体がその規模でサービスを提供できているというわけではありません。

出典：
・総人口（平成28年10月1日現在、確定値）：http://www.stat.go.jp/data/jinsui/new.htm
・自家用有償運送（79条の福祉有償運送2,458団体、市町村福祉輸送117団体）の団体社数。（2016年3月時点）

移動サービスの現状

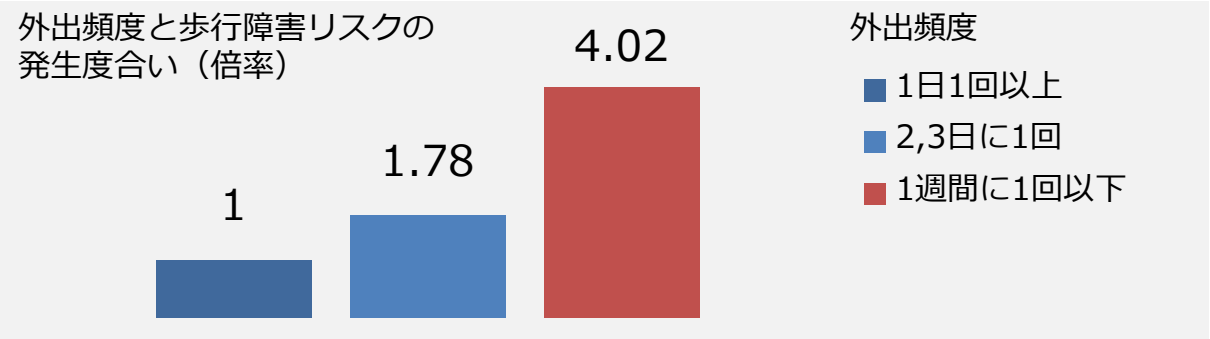
増え続ける高齢化社会の負担

移動サービスは移動困難者だけでなく、**社会全体の負担**も減らします。

2025年までに高齢者比率は

４人に１人 から ３人に１人へ

外出の頻度が低いと**歩行障害の発生リスク**が**4倍**となること、**認知機能低下のリスク**は**3.5倍**となることが報告されています。外出をサポートすることは、寝たきりなどの状況を予防し、**社会への負担を軽減させる**効果があります。



いまも、移動困難者予備軍はたくさんいます。
明日のあなたも例外ではありません。

高齢者のなかで
移動に困難を感じている人・・・ **2人に1人**

高齢者のなかで
一人での移動が困難な人・・・・ **10人に1人**

出典：
・高齢者割合=26.7%：「平成27年国勢調査」
・高齢者割合=30.3%：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」（平成 24 年1月推計）
・地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センターの調査「外出頻度と歩行障害、認知機能障害の発生リスク」
・高齢者のうち、移動が困難に感じている人＝50%：国交省平成29年報告書「地域における福祉タクシー等を活用した 福祉輸送のあり方調査」
・高齢者のうち、公共交通機関を一人で利用できない人の割合＝約10%：「移動困難者の需要推計に関する基礎的研究」

移動サービスを知る

移動サービスにしかできないこと

電車やバスなどの公共交通機関は難しいとしても、福祉タクシーなどを使う、あるいは家族の力を借りるなど、移動困難者が外出する方法はほかにもあるかもしれません。しかし「移動サービスでなければならない理由」は多く、確実にあるのです。

NPO法人「世田谷ミニキャブ区民の会」 理事長　荻野 陽一 さん

介助があれば外出できるのに「一度も外出をしたことがない」という移動困難者がいます。彼らにそのきっかけと勇気を与え、「世界を広げる」お手伝いをできるのが移動サービスです。移動困難者が積極的に外出すれば、タクシーなどの公共交通の意識の持ち方も変わってきます。移動サービスは社会を変える活動のひとつでもあります。

NPO法人「かめかめ福祉移送」 理事長　横山 和廣 さん

自由に外出できる「当たり前の生活」から、隔離される人がいます。その一方で、住民が支え合いながらいきいきと生活できる地域づくりをめざして、移動困難者を支援する住民の姿も見られます。個人主義や疎外感により孤立している人を、住民の「つながり」で呼び戻すこと、これは移動サービスだからこそできることです。

桜美林大学　健康福祉学群　社会福祉専修　教授　島津 淳 さん

移動サービスは、コミュニティのなかで助け合いを基調として、生活者の視点からサービスを提供することにより、「地域共生社会」の形成に大きく寄与しています。少子・高齢・人口減少社会の到来を背景に厚生労働省や政府が進める「地域共生社会」の実現には、輸送に関わるビジネスではなく、このような取り組みの拡大が、必要不可欠なると思います。

秦野市役所 福祉部高齢介護課　担当課長 石川 貴美子さん

移動サービスは、ドライバーが対象者やご家族の状況を把握し、必要に応じて移動・外出以外の支援なども柔軟にできますので、高齢者や障がい者、そのご家族にとっては心強いサービスです。また、高齢者の外出は健康維持にもつながりますので、健康寿命の延伸をめざすためにも、この活動がさらに広がることを心より期待します。

移動サービスを知る

こんな人が関わっています

ケース１　事業化も視野に入れて取り組む
NPO法人「Caremo」　鈴木 裕之 さん

Caremo（ケアモ）は要支援・要介護の高齢者の通院や買い物などの外出をサポートする送迎サービス（福祉有償運送）を提供するNPO法人。代表理事の鈴木裕之さんは、大学院で高齢者向けのオンデマンドバスの研究をし、2016年からこの事業を始めた若手です。

Q　鈴木さんが福祉有償運送に関わるようになったきっかけを教えてください。

大学院で高齢者向けのオンデマンドバスの研究をしていたのがきっかけです。しかし、オンデマンドバスの採算性には疑問を感じていました。一方で、福祉有償運送であれば、ギリギリのラインであっても運営維持に成功している団体もあるので、方法によっては事業化の可能性もあると考えました。現在は本業の傍ら、ドライバーとしても活動をしています。将来的には「福祉と医療の融合」をめざしたいと思っています。

Q　実際にはどんなサービスをしていますか。

板橋区を中心にサービスを提供していますが、入院や通院での利用の方が多いですね。今後は予約をPCやスマートフォンで受け付けるなど、ITの活用によってドライバーの負荷を減らしていきたいと考えています。
私自身は本業の傍ら、平日の業務の合間に送迎をしています。実際的な需要に応えているという手ごたえがあって、感謝されるというのが大きなやりがいとなっています。

Q　Caremoの提供するサービスの特徴はどこにありますか。

目的地に早く到着するということよりも、安全性と利用者の快適さを優先し、ていねいな運転を心がけています。また、事前研修があるので、介助の知識も多少持っています。さらに、必要に応じて利用者の自宅や病院の建物の中にも付き添います。このあたりが、利用者の方に喜ばれている要因かもしれません。

（次ページに続く）

移動サービスを知る

こんな人が関わっています

ケース１　事業化も視野に入れて取り組む
NPO法人「Caremo」　鈴木 裕之 さん

（前ページから続き）

Q　実際に活動を始めてみて感じている課題などを教えてください。

たとえば、寝たきりの方の場合「家から500メートル先の歯医者に行けない」など、確実に需要があることはわかっているのですが、ドライバーさんが不足していて供給を広げられないのがいちばんの課題ですね。私自身も最初は不安がありましたが、ドライバー活動はやってみると思っていたよりも、気軽に取り組めました。「介護」と難しく考えずに「自分のおじいちゃんを車に乗せている感覚」で、より多くの人に参加していただきたいと考えています。

NPO法人「Caremo」概要
所在地：東京都千代田区
保有車両台数：福祉車両１台
登録ドライバー数：３人
サービス提供地域：東京都板橋区
利用者：要支援・要介護の高齢者
http://caremo.or.jp/

移動サービスを知る

こんな人が関わっています

ケース２　供給力不足解消のカギは「のれん分け」
NPO法人「福祉送迎サービス・杉並」　長谷川 信儀 さん

長谷川信儀さんは、NPO法人「もくれんの家」でドライバーとして協力していましたが、09年に同団体が福祉有償運送の提供を中止したため、新たに「福祉送迎サービス・杉並」を立ち上げました。中心となっているドライバーは定年退職をした60代が中心です。

Q　ドライバーにはどんな方が多いのでしょう。

現状は退職した会社員の方が大半です。活動中のドライバーさんからの紹介で、ドライバーになるケースも多くあります。その場合は、いったん始めると長く続ける方が多いですね。
今後は、現役時代から週末や仕事の合間にお手伝いいただいて、定年後に本格的にドライバーの活動に取り組むケースもあるといいなと思います。さらに、その後に独立して団体を立ち上げる、などといったケースは理想的です。

Q　どんな方がサービスを利用していますか。

平日の通院が多いですが、通院だけではなくおでかけや通勤などでも利用いただいています。結婚式に参列するという方を大宮までお連れしたこともあります。また、リウマチのため満員電車での通勤が難しく、ご利用いただいていた方もいました。この方は「今後も色々な方に必要なサービスだから」と、福祉車両の購入費用を寄付してくださいました。移動サービスは車両の維持費など経費がかかる反面、ガイドラインに「タクシーの上限運賃額のおおむね1/2を目安に、地域の特性を勘案しつつ定める」と定められており、実質的には料金を抑えなければなりません。活動維持が難しいのは現実ですので、非常に感謝しています。

Q　利用者にとって、移動サービスを使うメリットは。

移動サービスは利用登録が必要な会員サービスです。登録の際に利用者の状況を把握できるため、それに応じて適切なドライバーやルートを選択し、サービスを提供することができます。たとえば、自閉症の方などで、決まったルートでないと気持ちが落ち着かないなどといったご要望にもお応えできます。通院や施設送迎など、繰り返しの利用が多く、自然と担当ドライバーが決まってくるので、「いつもの方が来てくれて安心」という声もあります。

（次ページに続く）

移動サービスを知る
こんな人が関わっています

ケース２　供給力不足解消のカギは「のれん分け」
NPO法人「福祉送迎サービス・杉並」　長谷川 信儀 さん

（前ページから続き）

Q　移動サービスの今後についてどのように考えていますか。

都内は公共交通機関があるので、一見、移動困難者は少ないように感じるかもしれません。でも実際のニーズはかなり多いのです。現在、19人のドライバーがいますが、きめ細かくサービスするならば、カバーできる利用者の人数は200人までででしょう。同じようなサービスを提供できる団体がもっと増えることを願っています。
移動サービスを継続的に提供するために「のれん分け」のような形で、今後、移動サービスの団体を増やしていけないかと考えています。「のれん分け」とは、最初はドライバーとして既存団体に弟子入りし、福祉車両の運転、介助や団体運営の方法を習得したのち、担当地域を分割してそのエリアを任せるなどといったイメージですね。

ドライバーだった方も、歳をとればいずれサービスを受ける立場になるでしょう。移動サービスは、私たちがお世話をするというよりは、世代間でお互いに順繰りに支え合う活動と考えています。

NPO法人「福祉送迎サービス・杉並」概要
所在地：東京都杉並区
保有車両台数：福祉車両６台、自家用セダン車７台
登録ドライバー人数：19人
サービス提供地域：東京都杉並区
利用者：要支援・要介護の高齢者、身体障がい者、知的障がい者

移動サービスに参加する
これからの関わり方

働き世代のあなたに参加してほしい

定年退職後にフルタイムで関わるという方法のほか、仕事の合間にドライバー活動に取り組むこともできます。仕事以外の分野での「やりがい」は自分自身の生活の質も高めることができる「大人の課外活動」です。活動の関わり方にはこんな方法もあります。

週に１回：フレックスの午前中を利用する

隆司さん（仮名）は、東京のベッドタウンに住む30代後半のサラリーマンだ。勤務先の会社はスーパーフレックス制度があり「ワークライフバランス」を大切にした働き方を推奨している。そこでフレックスタイムを利用して、週に１回、午前中に自分の車で高齢の方の通院送迎のボランティアをすることにした。病院にお連れし、その後の迎えにいくまでの待ち時間は、ファミレスで遅めの朝食をとりつつノートパソコンで仕事もする。どうしても抜けられない会議がある時には、他のドライバーに代わってもらうこともある。ちょっと大変だけど感謝されるのが嬉しくて、やりがいもあるこのボランティアが気に入っている。

月に２回：利用者の希望に応じて日程を決める

都心に住むフリーランスWebデザイナーの茜さん（仮名）は、毎月２回、参加している移動サービス団体の福祉車両を運転し、車椅子利用のＡさんの「おでかけ」を手伝っている。介助や車椅子の積み下ろしは力仕事なので、最初は大変かなと心配したが、茜さんの使う福祉車両は軽自動車だったので、女性でも取り回しがラクだった。車椅子の積み下ろしもそんなに大変ではない。なによりも利用者のＡさんがとても明るい性格で、茜さんとのおでかけを楽しみにしてくれているので、すっかり仲良しになった。月に2回という、ほんの少しの時間でも、誰かの役に立っていると思うとなんだか誇らしい。

移動サービスに参加する
あなたにできること

さまざまなサポートの形

ボランティアドライバーになるだけではありません。
移動サービスには、さまざまな関わり方があります。

移動サービス提供団体の活動に参加する

1.ドライバーとして
通院、通学、通所など決まった場所への送迎が多いため、利用者のニーズはおもに朝と夕方に集中しますが、休日やそれ以外の時間帯での送迎ももちろんあります。
毎日でなくても、フレックスタイムを活用して、仕事の合間にドライバーに加わることもできます。

2.介助者として
送迎の際に同行して、利用者の乗降のお手伝いや話し相手をするという参加方法もあります。

3.事務作業を手伝う
団体の活動には、利用者の予約受付やドライバーの手配といった運行管理などの事務作業をはじめ、経理やウェブ作業などがあります。仕事の合間や週末にそれををお手伝いすることもできます。

それ以外の支援方法

1.寄付をする
移動サービスを維持するには、車両代やガソリン代など何かと経費がかかります。金銭的な援助でサポートをすることもできます。

2.車両やスペースを貸し出す
マイカーや勤務先に眠っている福祉車両を有効活用しましょう。駐車スペースの不足に悩むサービス団体もあります。空いているスペースがあれば、ご提供ください。

3.問題をシェアする
あなたのお友達やお知り合いに、このサイトの情報や移動サービスの活動について教えてあげてください。Facebookやツイッター、ブログで移動サービスのことを取り上げてくださるのも有効です。

最後に介護・福祉関係者の方へ

施設の利用者にこの活動を教えてあげてください。また、あなたご自身の活動への参加もお待ちしています。

移動サービスに参加する
やってみたいと思ったら

コンタクト先

活動に参加してみたい、詳しい話を聞いてみたいと思ったら、実際に活動している団体にぜひコンタクトしてみてください。

1. 既存の団体に参加する

移動サービスを実施している団体は全国にあります。あなたの近くのサービス提供団体に連絡をしてみてください。各団体の方針によって異なりますが、可能な時間帯のみドライバーに加わったり、ヘルパーとして参加する方法もあります。ドライバーとして活動する場合は、団体を通して運転者講習を受講します。この講習を通して不安な気持ちも解消できます。

全国移動ネット 会員団体一覧
http://www.zenkoku-ido.net/members

2. 活動を立ち上げる

自分の活動地域に参加できる団体がない、ニーズはあるが活動団体がないなどといった場合には、自分で団体を立ち上げるという方法もあります。
その場合は全国移動サービスネットワークまでご連絡ください。活動の立ち上げに必要な情報や登録手続き等のサポートをご提供します。

NPO法人 全国移動サービスネットワーク
http://www.zenkoku-ido.net/
お電話でのご相談：03-3706-0626（受付時間 平日10:30～16:30）
メールでのご相談：info@zenkoku-ido.net

移動サービス運転者講習について

ボランティアドライバーとして活動するには、福祉有償運送運転者講習、セダン等運転者講習を受講して、運転者として認定を受ける必要があります。全国移動ネットでは講習を定期開催しているほか、運転者、管理者向け自主講習などの研修や教材の販売も行っています。
移動サービス運転者研修
http://www.zenkoku-ido.net/semminer
書籍のご案内
http://www.zenkoku-ido.net/books

全国移動サービスネットワークについて

NPO法人「全国移動サービスネットワーク」は「いつでも、誰でも、どこへでも出かけることのできる社会の実現」をめざし、1998年に設立されました。国内の移動サービスの実施団体や、研修実施団体などによって構成されるネットワーク組織です。

移動サービスを行なうNPO団体等の中間支援組織として、移動サービスに関する政策の提言や運転者の育成、関連書籍の発行などを行なっています。また、行政や関係団体と連携して移動困難者の課題解決に向けたセミナー等の開催や調査などの活動にも携わっています。

発行

NPO法人 全国移動サービスネットワーク
http://www.zenkoku-ido.net/

〒156-0055
東京都世田谷区船橋1丁目1番2号 山崎ビル204号

TEL 03-3706-0626（受付時間 平日10:30～16:30）
info@zenkoku-ido.net